

数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町にもう一度行ってきょうだいたちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、一緒に宣教に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。そこで、激しく意見が衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、きょうだいたちから主の恵みに委ねられて、出発した。そして、シリア州やキリキア州を回って諸教会を力づけた。（使徒 15:36～41）

パウロとバルナバは、エルサレムでの使徒会議で、異邦人に律法や割礼を強要しなくてもよいという福音理解を共有する決議を得たことを喜んだ。パウロが主張してきた、ユダヤ教の信仰や伝統に縛られない自由を確保することができた訳である。エルサレム教会から遣わされたユダとシラスの口頭での説明でも、異邦人たちはユダヤ人同化を求められないことを知って、大きな喜びが与えられた。福音は自分自身であることが是認されることである。二人は安心して、アンティオキア教会で、福音を告知らせながら過ごしていた。

その時、パウロは、第一回宣教旅行で信者になった人々はどのような信仰生活をしているかを知りたいと思うようになった。そこでバルナバに、「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町にもう一度行ってきょうだいたちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか」と提案した。バルナバはパウロの提案に同意し、第一回宣教旅行の時、助手として同行したマルコと呼ばれたヨハネを連れて行きたいと言った。マルコ・ヨハネは、ヘロデ王に投獄されたペトロが天使によって牢から解放された時、真っ先に訪ねたのが彼の母マリアの家であった。この家は「最後の晩餐」が行われた家であろう。そして、この家は最初の「エルサレム教会・家の教会」ではなかったか。母、息子は熱心な主イエス信者であった。バルナバは彼を、再度連れて行きたいと言った。しかしパウロは、第一回宣教旅行の時、パンフィリア州で自分たちから離れ、エルサレムに帰って、一緒に宣教旅行に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと主張した。二人の間で、意見が激しく衝突した。バルナバは穏やかな人だったので、マルコ・ヨハネの再起を期待したのではないか。一方のパウロは、彼の軟弱さを非難し、同行を拒否した。パウロの激しい性格が表れているようだ。二人は意見が合わず、別行動をとることにした。バルナバはマルコを連れて、彼の故郷キプロス島へ向かって船出した。

一方、パウロは同行者としてシラスを選んだ。シラスはエルサレム教会において、指導的な立場にあり、有力な預言者（福音宣教者）であった。彼は、使徒会議の決議を認めた手紙を託され、口頭でも決議内容をアンティオキア教会で説明した。パウロは、シラスの説明を聞いて、彼の信仰に深く感銘を受けたのではないか。パウロはシラスを信頼し、一緒に宣教旅行に行きたいと願った。二人は教会員から主の恵みに委ねられて、陸路、現在のトルコの中中部、シリア州やキリキア州に向かって出発した。この宣教は、以前行った町の兄弟たちを訪ねる目的で、第二回宣教旅行を目指したものではなかった。しかし、この旅行が、ギリシアの町々を巡る第二回宣教旅行になり、ヨーロッパに届く、大きな異邦人宣教になっていった。著者ルカはここから、パウロの異邦人宣教に焦点を当てていく。